

☆重度障害者 生きる喜び、奪わないで 母が写真集を配布

毎日新聞 2018年1月31日

<https://mainichi.jp/articles/20180131/k00/00e/040/230000c>

＞ 相模原殺傷「再発防止を」

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が刺殺された事件から1年半。重い脳障害のある娘を育ててきた河田真智子さん（64）＝東京都目黒区＝が、長女夏帆さん（30）の人生を記録した写真集「河田真智子写真集 生きる喜び」を増刷し、医療や福祉関係者に届ける活動を始めた。

夏帆さんは1987年に仮死状態で生まれ、生後2カ月で難治性「点頭てんかん」と診断された。最重度の身体障害と知的障害があり、歩行や会話はできない。真智子さんは島旅作家として働きながら、懸命に生き続ける夏帆さんの写真を2万枚以上撮影。「いつ死ぬか分からない娘の生きた証を残そう」と、2013年に写真集「生きる喜び」を1200部、自費出版した。

写真集には、生まれたばかりの夏帆さんを取り囲む医師らの緊迫した様子、夏帆さんが野原で気持ちよさそうに日なたぼっこしている表情、自宅で呼吸困難になり救急隊員が駆けつけた時の姿など、成長過程が記録されている。

元施設職員の植松聖被告（28）は「障害者なんていなくなればいい」と主張した。真智子さんは、これが障害者排除の優生思想だと知り、妙に納得したという。そういう空気は日常生活で感じてきたからだ。車椅子の人が優先的に乗れるエレベーターに並んでも、先に乗り込んだ買い物客がスペースを空けてくれず、長時間並び続けたり、冷たい言葉を浴びせられたりもした。

社会の空気が事件を生んだとすれば、いつ自分の子が犠牲になってもおかしくない。危機感を感じ、「障害者の生きる喜びを伝えるのが夏帆の使命」と思い立った。2400部を増刷し、昨年12月、奄美看護福祉専門学校（鹿児島県奄美市）の学生に200部を届けた。「未来の看護師」たちから「気持ちを揺さぶられた」と感想を受け取り、心強く感じた。夏帆さんが31歳になる7月16日までに、医療・福祉関係者に1000部を届けたいと考えている。

真智子さんは「障害は特別なことでなく、かわいそうでもない。誰にでも、かけがえのない日常と愛があることを知ってほしい。知ることが事件の再発防止の一步になるはず」と話す。

1部1200円（送料別）で購入希望者に郵送する。問い合わせはメール（kawadamachiko@gmail.com）で。

…などと伝えています。

＊同記事は、Yahoo!ニュース でも配信されています。

＜重度障害者＞生きる喜び、奪わないで 母が写真集を配布

（毎日新聞） - Yahoo!ニュース 1/31

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180131-00000026-mai-soci>

重い障害がある長女夏帆さん（左）を

抱き上げる河田真智子さん＝東京都目黒区の自宅で

→



☆NPO法人 医療的ケアネット HPやMLでも紹介しております。

<http://www.mcnet.or.jp/index.shtml>

▽医ケアネット会員で

東京都在住の島旅写真家：河田真智子さんが 「なつほミッション」 をスタートされました。

＊障害があっても満ち溢れる『生きる喜び』を未来の看護師さんに届けたい！！

<<河田真智子写真集：生きる喜び>>

・そのミッションのリーフレットです。

表 <http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/kawada%20rifu%20omote.pdf>

裏 <http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/kawada%20rifu%20ura.pdf>

＊F Bページ「生きる喜び」も開設されています。

<https://www.facebook.com/umiusaginet/>

↑↑「戻っておいで」心の支えに 島旅作家の河田さん、

「生きる喜び」伝える 奄美看護福祉専門学校

南海日日新聞 2017年12月9日

> 東京在住の島旅作家・写真家の河田真智子さん（64）が8日、鹿児島県奄美市名瀬の奄美看護福祉専門学校（向井奉文校長）で講演した。学生たちは、障がいのある娘を育てながら働き、同じような境遇にある母親のネットワークづくりに尽力してきた河田さんの講話に聞き入り、命や家族、支え合って生きることの大切さを痛感した。

…などと掲載されています。（ワード編集で）

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/20171209%20nankainitiniti%20news.pdf>